

「みんなの学校」活動報告書

(2年目：令和2年4月～令和3年3月)

令和3年3月31日

「みんなの学校」実行委員会

広報活動

活動2年目に入り、活動の周知と参加者募集のため、多彩な広報活動を展開した。しかし、新型コロナ禍の影響で、市民の動きが重く、広報の効果は限定的であった。

- (1) みんなの学校のPRおよび参加者募集のチラシ4,500枚を制作・印刷し、本事業の対象地区（朝日ヶ丘中学校区）内の自治会を通して、各戸配布または掲示板への掲示を行った。またその後、みんなの学校の活動の様態と結果、以後の活動予定などを、随時、掲示により地区内に伝えた。
- (2) 公民館前庭にみんなの学校で造成した「みんなの庭」のフェンスおよび西小中台団地の店舗前に掲示板を設置し、みんなの学校の活動の様態と結果、以後の活動予定などを、随時掲示して、活動の周知を図った。
- (3) みんなの学校のイベントポスターを、地域内の自治会掲示板、市役所掲示板に掲示した。

みんなの学校講座

第1回みんなの学校

令和2年6月21日

(朝日ヶ丘公民館講義室)

第1回まちづくり講座 「スタートアップ講座」

だれでもできるまちづくり 「みんなの学校」の活動紹介

講師:橋立達夫 「みんなの学校」実行委員会代表



C

(1) まちづくりって何をすること?

まちづくりとは、住民一人ひとりが前向きに生きる条件をつくること

(2) 朝日ヶ丘はどんなところ?

50～60年前から急速に宅地開発が行われた地域で、寺社は一つもなく、歴史が浅い地域であるが、縄文時代前期からの遺跡が数多くあり、住みやすい地域であったと考えられる。初期からの住民の高齢化が進み、空き家も増えているが、一方近年、新たな住宅開発も盛んに行われ、子育て世代の流入も多い。

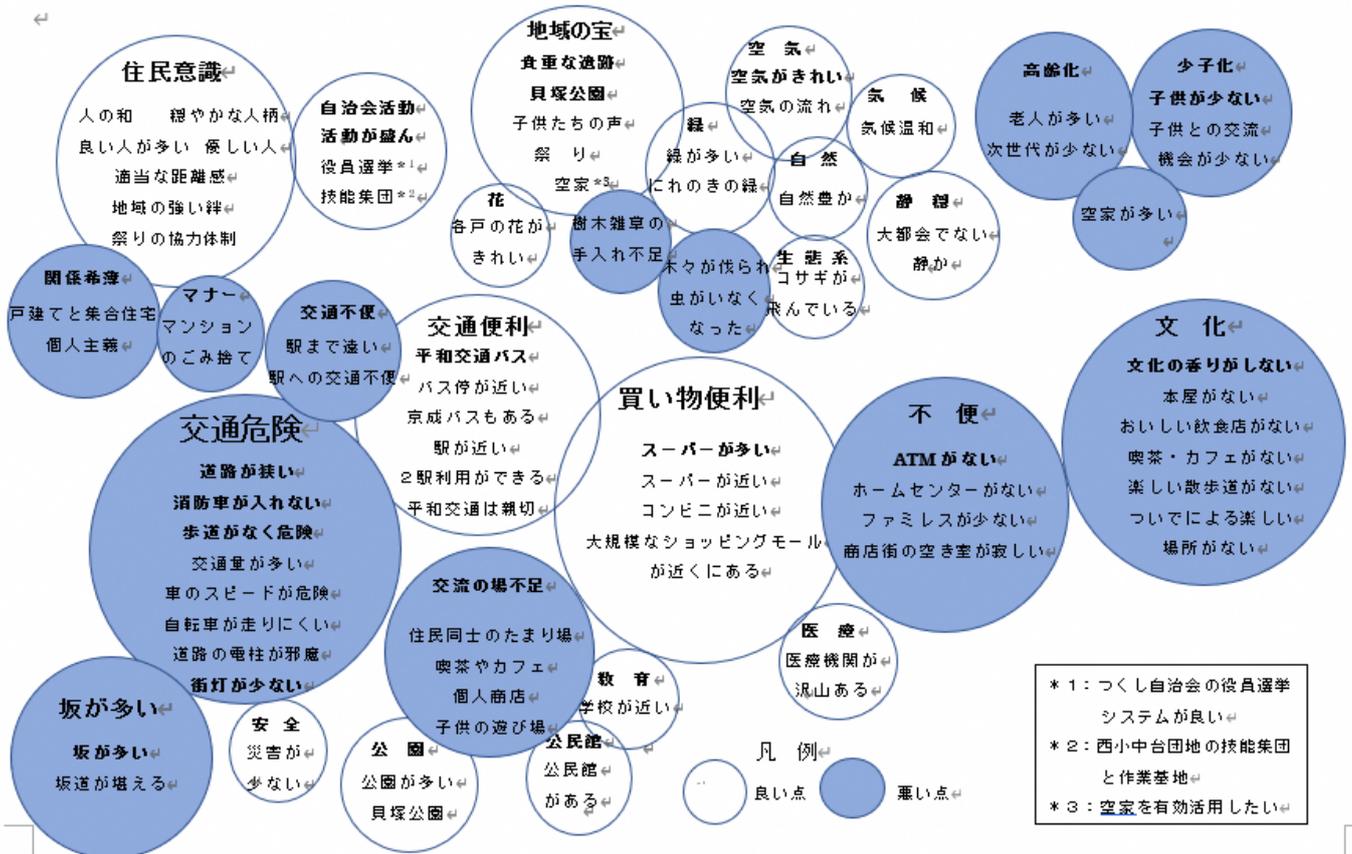
(3) みんなの学校は、これまで何をしてきたか

地域を美しく快適で楽しいまちにするために、コミュニティガーデン造りや地域の歴史案内板づくり、歴史講座や音楽講座などを実施してきた

(4) これからの活動

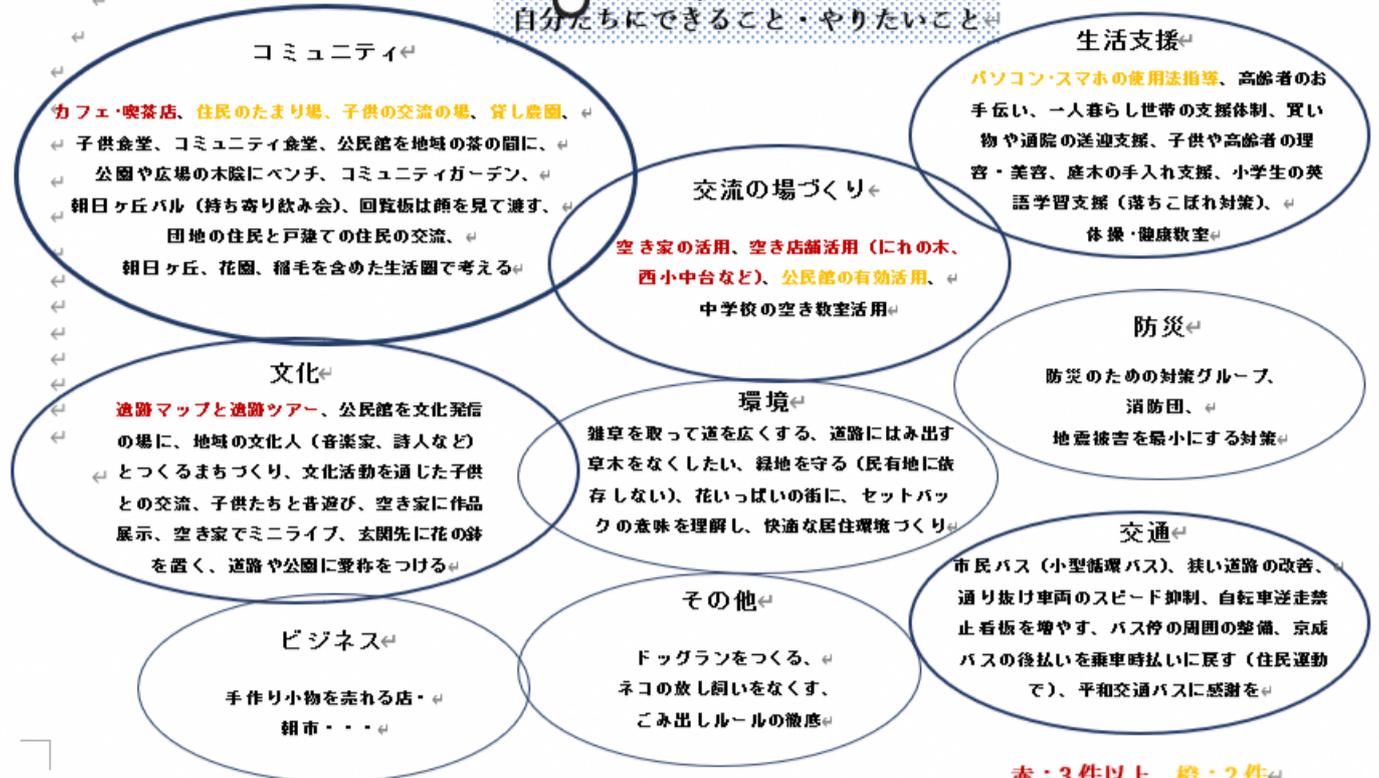
昨年度に続きこれからも、地域を美しく快適で楽しいまちにするために、みんなで考え、計画し、できることを実行するという、みんなの学校の理念に沿った活動を行いたい。

一人一人が、自分のできることを、できる範囲で、できるときに実施することで、地域は少しずつ、確実に良くなって行く。皆様の参加をお願いしたい。



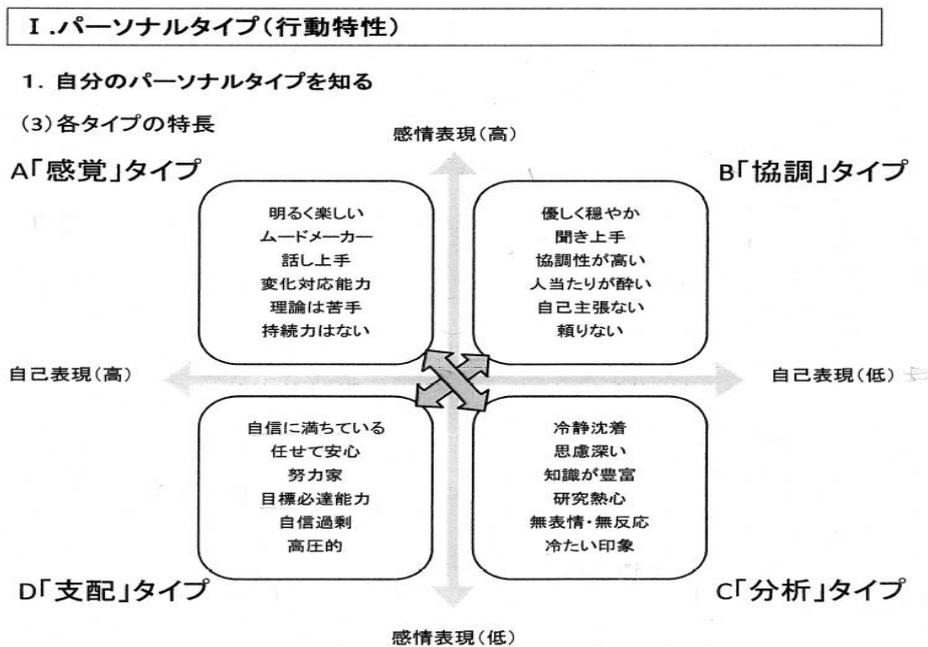
第2回まちづくり講座 (6/23) の内容報告 2019年6月23日

テーマ: 自分たちができること・やりたいこと



第2回まちづくり講座「コミュニケーションカアアップ講座」

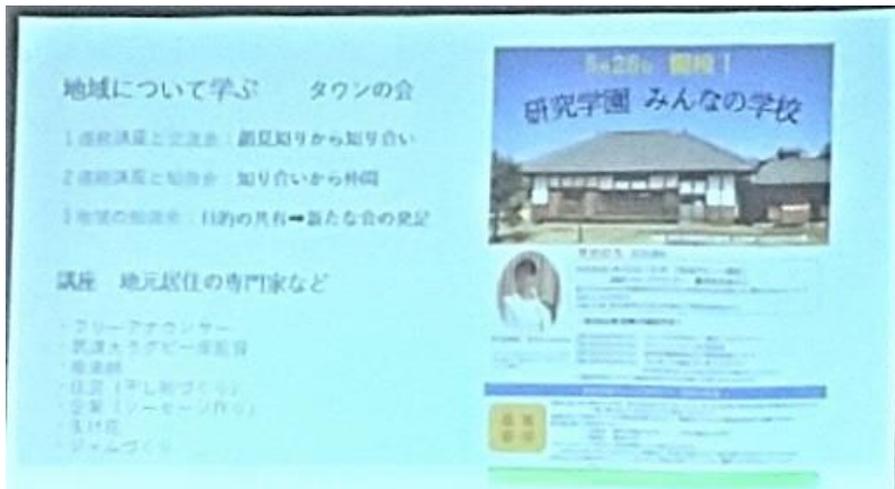
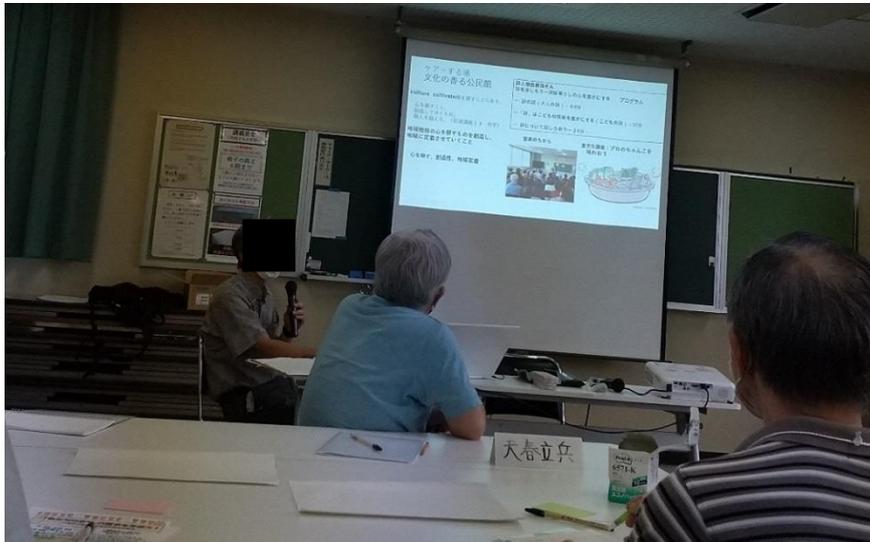
講師：椿景子さん（国際ファシリテーション協会専務理事
千葉市ファシリテーター養成講座講師）



多様な経験を持つ参加者の力から街を楽しくするアイデアが生まれるような、楽しい対話の方法を学ぶ講座の予定だったが、新型コロナ禍の影響で、対面型のワークショップができないため、参加者個人の自己適性を考え、他者とのコミュニケーションについての留意事項を知る講座に変更し行った。

第3回まちづくり講座 「事例で学ぶまちづくり」

講師 伊藤 節治（みんなの学校実行委員）



みんなの学校創設メンバーの伊藤節治さんが立上げから関わり、「みんなの学校」の先駆者として大きな展開を見せている茨城県つくば研究学園都市の事例を中心に、画像を使って紹介。市民ボランティアによるまちづくりにより、地域に何が起こるかが示された。多様なプロジェクトグループがそれぞれ「この指止まれ」の呼びかけで集まり、各種事業が継続・拡大していることに「みんなの学校」の目指すべき将来を見ることができた。しかし、朝日ヶ丘地区とのスケールの違いもあり、花見川区レベルの対応を考えるべきとも思われた。

「歴史講座：私たちのまちの歴史を学ぼう」

講師 長原 亘さん（千葉市立加曾利貝塚博物館学芸員）



千葉市教育委員会の出前講座として、千葉市立加曾利貝塚博物館学芸員の長原亘さんを迎え、地域の歴史に関する講座を開催した。

朝日ヶ丘周辺は、縄文時代前期の遺跡が多数あることが知られているが、それ以前の石器時代の遺跡もあり、地層の中に1万年以上の歴史が積み重なっている。古墳時代の遺跡があることも分かっている。浅い層には、江戸時代の居住の跡も見られる。また、遺跡の発掘現場からは、活断層が発見された例もある。歴史に学んで、今この地域でどう生きるかを考えるというきっかけにしてほしい。

「音楽療法講座：音楽で元気に」

講師 寺門 恭代さん（千葉市生活支援コーディネーター）



リズム体操の動作を一人ひとりが考え、次の人にリレー

千葉市社会福祉協議会の後援を受け、千葉市生活支援コーディネーターの寺門恭代さんをお招きして実施した。ピアノ伴奏は、みんなの学校実行委員の青木恭子さんが担当した。

コロナ禍のため、歌唱はできなかったが、ピアノ演奏、リズム体操、音楽に合わせての脳トレ、多様な打楽器を使ってのパーカッション演奏体験など、楽しい時間を過ごすことができた。

パイロットプロジェクト

昨年度に引き続き、これまでのワークショップで出された、まちづくりのアイデアについて、すぐにできそうなことの事業化を計画し、実行した。

主な課題は3つ

- ・ふれあいの場づくり
- ・地域の道路を美しく楽しく歩ける道に
- ・縄文の歴史を活かしたまちづくり

3つの課題に対応して事業を検討・計画・実施するグループが立ち上がり、事業を進めた。なお、実際の事業実施に当たっては、できる限りみんなの学校メンバー全員に声掛けし、協力して行うこととした。

ふれあいの場づくりグループ】

音楽療法講座

学習機会を広げる

音楽 有償のミニコンサート 詩

特技のある人を探して講師に

などをテーマに、文化イベントの実施を検討したが、コロナ禍の影響で前掲の音楽療法講座を実施するにとどまった。

【美しく楽しい道づくりグループ】

1. コミュニティガーデン:「みんなの庭」

公民館前庭のコミュニティガーデンを拡張整備し、公民館の歩行者入り口両側の花壇は、四季を通じて花がある美しい庭になった。みんなの学校のメンバーによって、雑草取り、施肥、水やり、花苗植え付けなどの管理作業を定期的に行い、美しい庭園として、公民館来訪者や、散歩の人たちに大変喜ばれている。



2. 土づくりベース

花壇の維持のため、良質の土が大量に必要な状況が見えてきた。そのため、公民館駐車場に降り積もる落ち葉を利用して、園芸用土を作る「土づくりベース」を公民館裏に造成し、堆肥の醸成を始めた。



土づくりベース

落ち葉のほか、米ぬか、もみ殻、黒土などを加えて、発酵分解を促すことにより、半年で良質な腐葉土が150kg程度生産できる状況になっている。すでに令和2年秋には、次項に示す中学校南門周囲のガーデニング作業等に用いることができた。

3. 中学校南門周囲のガーデニング

今年度の新規事業として、シンボルロード沿いの朝日ヶ丘中学校南門周囲に新たなコミュニティガーデンを作ることを決め、中学校の了解を得て、計画を進めた。昨年度に引き続き、プロガーデナーの三浦香澄さんを招いて、植栽の方針を決めるワークショップを実施し「心落ち着くしっとりとした和風の庭」をコンセプトとしてガーデニング作業を行った。



(造成前)



(造成後)



(完成後の説明)

4. 公民館西側に新たな「みんなの庭」造成

令和3年2月に、地域内在住の高齢のご夫婦から、「転居のため庭の草木や盆栽をすべて処分したいので引き取ってくれないか」という打診があった。早速伺って庭を拝見したところ、50年以上丹精を込めて世話をされた素晴らしい庭木や盆栽が多数あることがわかった。つくし自治会のつくしガーデンの方々と手分けして庭を整理して、多数の草木をいただいた。公民館長の了解をいただき、これらを公民館駐車場入り口左側の花壇に移植し、新しい和風のコミュニティガーデン「みんなの庭」として造成することができた。



この庭は、朝日ヶ丘3丁目にお住いの窪田様ご夫妻からいただいた庭木と草花を用いて造りました。昭和40年から56年間も丹精を込めて育てられた庭でしたが、ご転居に伴い整理をされたいということでいただいたものです。素敵なご夫妻の象徴として、ドウダンツツジとサツキの刈込を主木とし、モミジ、ボケ、アジサイやマンリョウなどを植え込んで、日本庭園風に仕上げました。季節ごとの風情をお楽しみいただければ幸いです。

令和3年2月 みんなの学校

地域内の高齢化が進む中で、今後、このような事例が多くなることが予想され、受け皿としての市民活動の可能性が見えた。

5. ガーデニング事業の総括

以上の活動により、荒れていた公民館前の3つの花壇および朝日ヶ丘中学校南門周辺の計4カ所を「みんなの庭」として整備することができた。公民館も、この取り組みを積極的に応援してくれている。

【歴史を生かしたまちづくりグループ】

歴史講演会の実施

前掲の歴史講座を、千葉市教育委員会の出前講座として実施した。

遺跡案内板の制作・設置

地域内に豊富にあることが分かった、縄文遺跡、貝塚などの存在を周知し、朝日ヶ丘地区が住みやすい「まほろば」であることを広く知ってもらうため、遺跡案内板の整備を行った。鳥喰東遺跡の案内板1基、鳥込貝塚の案内板2基である。案内板の表示内容は、歴史資料に基づいてみんなの学校で原案を作成し、千葉市教育委員会の監修を得て制作した。また西小中台小学校には、鳥込貝塚の案内板のレプリカを贈呈した。

1. 鳥喰東遺跡



2. 鳥込貝塚（西小中台小学校前）



3. 鳥込貝塚（貝塚公園入り口）リーダーの中島さん



「みんなの学校」活動の成果

活動を通して分かったこと

- ▶ 地域には埋もれた宝がある
- ▶ 地域には隠れた危機があるかもしれない
- ▶ 地域には様々な人材がいる
- ▶ その一人ひとりが多様な人脈を持っている
- ▶ 活躍の場をつくれば人は生きいきと活動する
- ▶ 結果が出れば弾みがつく
- ▶ まちづくりには応援団がいる
- ▶ まちづくりに使うことができる様々な助成制度がある

メンバーの中で生まれた様々な活動のアイデアをもとに、実践的事業を展開した

- ▶ サンライズガーデン～みんなの庭～ 拡張と維持管理
- ▶ 第二、第三のコミュニティガーデン「みんなの庭」造成
- ▶ 縄文の遺跡マップ（令和元年度公民館文化祭で展示）、遺跡案内板3基

- ▶ 歴史講座（昨年につき2回目）
- ▶ 音楽療法講座（昨年につき2回目）

活動を通じて地域の創造力を示すことができたと考える。

反省点と今後の課題

- ▶ 活動は順調に進んできたが、メンバーの拡大が難しく、コアメンバーの負担が大きい
- ▶ 1万9千人の地域人口に伝えることの難しさを痛感している。各年度の当初に4,000~5,000部のチラシを制作し、各戸配布をしてきたが、ほとんど効果が見られない。SNSの活用など、新たな対応が必要か
- ▶ まだ主催者とお客様の関係から抜け出していない
- ▶ みんなの学校がなくても、できる人ができる時にできることをするという状況が理想であるが、なかなか参加者の広がりができない
- ▶ 3年間の補助期間が終わったら活動も終わってしまうということがないよう、自立的な活動の方向を考えているが、まだ見えていない
- ▶ ガーデニング事業は、目に見える成果が出るため、活動のPR効果が大きいことが感じられる。しかしできた庭の雑草除去、水やり、枯葉の除去、施肥、剪定などの維持管理作業に多大な労力を要する。やりがいのある仕事を楽しむという要素はあるが、高齢化の進むメンバーでは、いずれ限界が来ることが予想される。

以上が2020年度の「みんなの学校」活動報告である。1年間の活動を通してご支援、ご協力を賜った関係各位に、厚く御礼申し上げます次第である。